



# 稲作情報



JA秋田ふるさと 営農経済部 米穀課 ☎ 23-6556

各営農センター

金沢 ☎ 37-2124 大雄 ☎ 52-3665 横手 ☎ 32-8220 増田 ☎ 45-2035

平鹿 ☎ 24-3110 十文字 ☎ 44-3101 大森 ☎ 26-4155 雄物川 ☎ 22-2266

秋田県農業共済組合横手市支所 ☎ 32-4150

農産課(農作・畑作・損防) ☎ 32-4404

建物農機具課(建物・農機具) ☎ 32-4119

秋田県平鹿地域振興局 農林部 農業振興普及課 ☎ 32-1805

横手市農林部: 農業振興課 ☎ 32-2112・32-2113

家畜果樹園芸課(家畜・果樹・園芸) ☎ 32-4407



## 適正な刈り取り判断により、高品質米生産に努めましょう!!

★★★ 適正な乾燥・粃摺・調製等で全量1等米に ★★★

### 1. 現在の生育状況

管内の出穂盛期(50%)は、平年より3日遅い8月7日頃と見られます。本年は田植え時期の早晚によって、例年以上に出穂日の差が大きく、管内の田植え盛期5月24日頃の圃場では8月7日頃、6月初めの田植え圃場では8月15日頃と、田植えの早晚で一週間以上の差となっております。

穂揃期の生育は、穂数は管内平均では平年比97%と少なく、1穂当り粒数がやや多いものの、㎡当り粒数は平年の98%となっています。(平鹿地域振興局 農業振興普及課8/20調査)

	地域	年次	穂数	葉数	着粒数	
			本/㎡	葉	一穂当	㎡当
全	域	本年	425	13.2	76.3	32,079
		平年比	97%	0.4	101%	98%
平	場	本年	427.0	13.2	75.4	31,659
		平年比	97.4%	0.2	99.8%	97.9%
山	間	本年	421.0	13.4	78.6	31,321
		平年比	96.3%	0.4	101.1%	101.5%

8/26発表の向こう1か月予報では、気温は平年並みか低く・日照時間は平年並みか少なく、天気は平年に比べて曇りや雨の日多い予想となっています。登熟度合いをよく確かめ、適期刈取りに努めましょう。

### 2. 斑点米対策

各営農センターによる出穂後のカメムシ掬い取り調査で、ヒエ・ホタルイが残った圃場や、畦畔に雑草が生い茂っているところでは、アカヒゲホソミドリカミカメ、アカスジカミカメ等が多く捕獲されています。

特に昨年カメムシ被害の多かった圃場や倒伏圃場では被害状況の確認として、畦畔沿い、及び中央部から各30本位を抜き穂し、予備乾燥後粃摺りして玄米の事前チェックを行ってから刈取り作業にあってください。

畦畔沿いだけ斑点米が認められる

クサビ型着色粒(黒点米)が多い  
畦畔沿い、中央部とも斑点米が認められる

刈り分けし、乾燥調製・出荷

色彩選別機の利用を考慮する

★刈り分けした玄米は、分けて出荷してください。★

◆検査等級別着色粒混入最高限度の目安(1カルトン約1,100粒)◆

等級	1等	2等	3等
混入最高限度率	0.1%	0.3%	0.7%
1カルトン混入限度粒数	1粒まで	3粒まで	7粒まで

白色カルトンを使用すると確認が容易です。

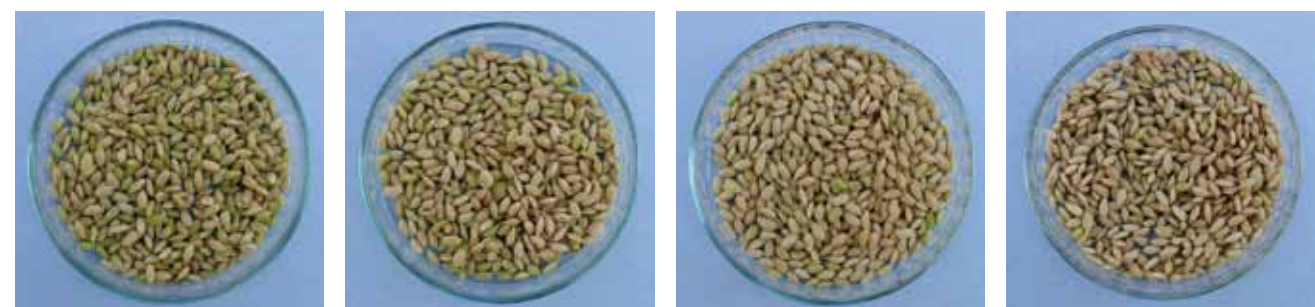
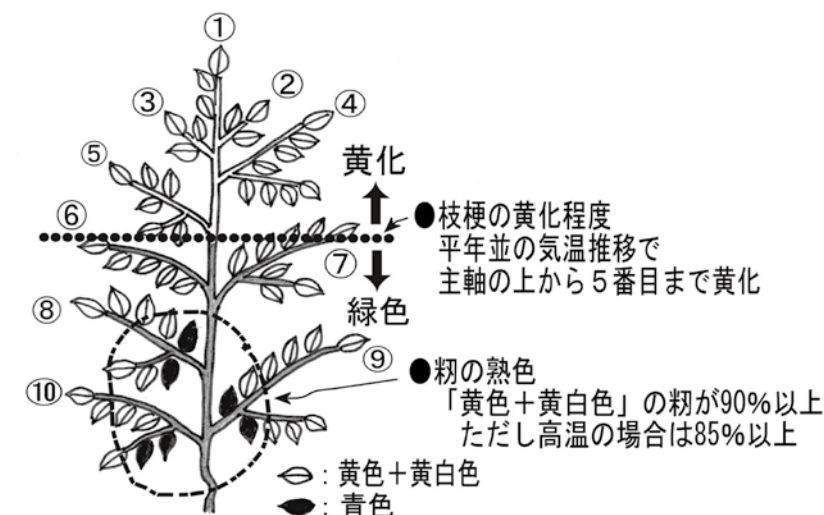
### 3. 刈り取り適期判断

稲刈りは平年並みと推測されますが、積算気温・出穂後の日数や籾の熟色と枝梗の黄化度をもとに、総合的に判断して適期刈取りに努めましょう。

#### 刈取り適期判断基準

- 1) 出穂後の日数 …… 早生品種で45日前後。中晩生品種で50日前後。
- 2) 籾の熟色 …… 葉や穂首が緑色であっても、籾の黄化程度が90%の頃。
- 3) 出穂後の積算気温 …… 早生品種で950~1,050℃。中晩生品種で1,050~1,150℃の頃。  
(早生品種で1,100℃、中晩生品種で1,200℃を超えると胴割れが増加)
- 4) 枝梗の黄化程度 …… 主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃。  
(低温年や障害不稔の場合は、枝梗が長く緑色を呈しているのに注意)

上記を総合的に判断し、適期を特定する。



黄化率30%

黄化率50%

黄化率65%

黄化率80%

#### ※水稻栽培日誌の提出はお済ですか？

日誌が提出されていないと、特別栽培・e c oライス等の判定ができずシールの配布、C E・R Cでの受け入れができなくなります。まだ提出されていない方は記載内容を再確認の上、早急に提出くださいますようお願いいたします。

★出穂後の積算気温と日照時間から判断した刈り取り適期予想

出穂期 (50%)	早生種 (あきたこまち)	中生晩種 (めんこ・ササ)
	積算気温到達日 950~1,050℃	積算気温到達日 1,050~1,150℃
8月1日	9月10~15日	9月15~19日
8月4日	9月14~19日	9月19~22日
8月7日	9月18~23日	9月23~29日
8月10日	9月22~28日	9月28~10月4日
8月13日	9月26~10月2日	10月2~8日
8月16日	9月30~10月7日	10月7~13日

※8月31現在、以降は平年気温及び日照時間を積算しております。

## 4. 乾燥のポイント

高水分米(水分15%以上)は、長期保管する場合変質する可能性が高くなります。逆に過乾燥米は胴割れ・食味低下につながりますので、乾燥にあたっては細心の注意が必要です。

変質防止を含め、良食味・高品質米生産に向けて次の項目をチェックしながら作業を行いましょう。

**チェック項目**

- 生籾は4時間以上放置しない。
- 水分は作業ごとに確認
  - ①乾燥前    ②乾燥途中    ③乾燥終了時    ④籾摺り前    ⑤籾摺り作業中
- 乾燥温度は乾燥機の定められた張り込み量に見合った乾燥温度下限に設定
- 低温二段乾燥で
  - \*乾燥温度を下限に設定し、水分18%位で一旦火を止め、5~6時間後仕上げ乾燥を行う。
  - (張り込み時の水分が高い場合は特に注意)
- 青米混入量のチェック
  - \*青米混入量によって、乾燥が進む場合と戻る場合があります。
- 目標水分15.0%以内    ※特に備蓄米は、水分が15.0%を超えると出荷できません。

◆玄米水分15.0%以内仕上げの目安

玄米100粒中の青米数	乾燥機停止時玄米水分	仕上がり水分
0~5粒	14.5~15.0%	14.5~14.9%
6~10粒	14.5~14.8%	
11粒以上	14.2~14.5%	

## 5. 調製のポイント

籾摺・調製の良否は、直接米の等級に左右します。機械の能力にあった調製を行い、細心の配慮に心がけ籾摺作業で品質上問題となる「肌ずれ」「籾混入」が出ないように確認しながら作業しましょう。

米選機は、回転型(縦型・横型)、縦選型がありますが、縦型回転型と計量器が一体になったものが主流となっております。回転型は一定の速度で選別用ふるいが回転し選別を行うため、米の流量により選別能力が変化します。

籾摺速度と米選速度の不一致により、米の品質が低下を引き起こしている場合があります。籾摺作業と連動して行う場合は、米の充実度に応じて籾摺機の流量調整(1.9mm網使用で流量を約80%で調整)を行い、整粒歩合の高い米づくりにつとめましょう。

次の項目をチェックしながら、選別機能力に見合った籾摺り作業を行いましょう。

**チェック項目**

- 紙袋表示記入漏れの確認 …… 年産、銘柄、生産者名、品種名、貼付シール 等
- 機械の始業前清掃及び点検整備
  - \*ロール磨耗等、点検整備不良は籾混入や肌ずれ、胴割れの原因となります。
  - \*清掃不良によるホコリ・ネズミ死骸等の異物混入注意!
  - (米は食品です)
- 乾燥後、籾は十分放冷し籾摺り作業を行う。 …… 肌ずれ防止
- 籾摺りは、脱ぶ率80~85%を目安に行う。
- 米選機には、必ずアースを適切に設置する。
- 選別網目は1.9mm網基準。
- 品質チェック
  - ①籾摺り開始時    ②作業中
  - \*もみ混入限度は、1等で0.3% …… 1カルトン4粒以下
- 皆掛重量30.5kgの確保

☆ **量目不足について** ☆

年々量目不足のクレームが多くなっております。自動選別計量機使用の際も台秤で試貫を必ず行い、**皆掛重量30.5kgの確保**をお願いします。また、デジタル秤りの設定で30.50kgにすると、余裕がないためその後欠減している場合があります。**デジタル計量器の設定を30.54kgにする**など工夫し、出荷後に量目不足とならないよう注意をお願いします。

(量目不足が生じる事例)

- 原因①** 自動選別計量機の秤の水平がとれていなかった。または、固定が不十分だった。  
→水平・固定の確認
- 原因②** 乾燥後、穀温を十分放冷せず籾摺した。→穀温低下=水分低下により量目減。  
→乾燥後、籾は十分放冷してから籾摺りを行う。
- 原因③** 袋詰め後、直射日光のあたる場所に保管。乾燥により量目減。  
→直射日光を当てない。

☆☆☆ **異品種混入・異物混入の徹底防止** ☆☆☆  
~コンバイン・乾燥機・籾摺り機・米選機・計量器等の清掃、点検を万全に!!~